

授業概要

保育所では、0歳児から、幼稚園では、3歳児から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象として、保育を行っている。乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期であり、子どもの健全な心身の発育を図るためには正しい児童観と保育観をもち、子どもの発達を見通して発達段階にふさわしい関わり方が必要である。保育者としての子ども理解や援助、コミュニケーション力、指導力、協働性等の保育者に求められる保育力の基盤を学ぶ。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 講義の概要説明/保育原理とは（現代の子どもの生活環境）
第 2 回	保育の理念と子ども 保育をめぐる理念と子どもとのかかわりについて学ぶ
第 3 回	保育所の役割と保育の本質
第 4 回	保育士の専門性と役割
第 5 回	保育の環境
第 6 回	保育の「ねらい」と「内容」
第 7 回	子どもの発達過程と保育
第 8 回	保育と遊び ・進捗確認試験
第 9 回	日本における保育制度の現状と課題：幼稚園・保育所の相違や設置基準等、日本における保育制度の現状とその課題
第 10 回	日本における保育施策の現状と課題：子ども子育て支援新制度等、日本における保育施策の現状とその課題
第 11 回	保育思想の変遷（西洋）
第 12 回	保育思想の変遷（日本）
第 13 回	保育の計画・評価
第 14 回	多様な保育ニーズ
第 15 回	保育の方法
第 16 回	試験

到達目標

- ① 保育の意義及び目的について理解できる。
- ② 保育に関する法令及び制度を理解できる。
- ③ 保育所保育指針における保育の基本について理解できる。
- ④ 保育の思想と歴史的変遷について理解できる。
- ⑤ 保育の現状と課題について理解できる。

履修上の注意

- ・積極的に授業に参加すること。
- ・教科書・資料のプリントをファイルにまとめ、常に持参すること。

予習・復習

- ・予習：各回でのトピックについて教科書を中心に読み込むとともに、不明確な点については文献、インターネット等で確認する。
- ・復習：ノートやプリント等で振り返りをしつつ、不足分について関連文献を読み込み、資料収集を行い、成果の定着を図る。

評価方法

・授業への参加姿勢（10%）、課題レポートの提出（30%）、試験（60%）で評価を行い、総合評価 60 点以上を合格点とする。

テキスト

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書名：保育原理 ・著者名：汐見稔幸、無藤隆、大豆生田啓友編著 ・出版社名：ミネルヴァ書房 ・出版年（ISBN）：978-4-623-08443-3 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書名：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼
保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷 ・著者名：民秋言 編著 ・出版社名：萌文書林 ・出版年（ISBN）：978-4-89347-254-0 |
|---|--|

参考文献：保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説書